

書評

[評者]
康 東天
九大大学院教授・臨床検査
医学



検査値を読むトレーニング ルーチン検査でここまでわかる 本田孝行 著

●B5 頁352 2019年1月
定価：本体4,500円＋税
[ISBN978-4-260-02476-1]医学書院刊

RCPCのレジェンド、信州大の本田孝行教授の手に
よる待望の臨床検査読本である。信州大学方式の
RCPC判読は現在の日本の臨床検査領域における王道
と言うべき判読法で、毎年ほとんどの臨床検査関連学
会の全国大会で本方式によるRCPC症例勉強会が開催
されている。

本書は信州大学方式が基本的な解説病態として挙げ
ている13のテーマに沿って、非常に典型的な39症例
を解説している。特徴は、ある一時点の検査結果だけ
ではなく、1週間から場合によっては数カ月にわたる
経時的な検査結果の変化を詳細に提示していることで
あり、まさに臨床の現場で経験する状況を再現してい
る。そのような経時的な検査結果の変化を読み解くこ
とでこそ、症例患者の体のなかで一体何が起こってい
たのかを読者も納得して正確に理解できる。本書は判
読トレーニングに適した多くの症例を解説しているだ
けでなく、読み進めると自然と各検査項目の意味と意

義が理解できるようにわかりやすい多くの図表が配置
されている。その意味で、本書は検査技師や医師の
RCPCトレーニングとして優れているだけでなく、臨
床検査を学ぶ学部学生にとっても、具体例をベースに
しつつ、各検査項目のバックグラウンドやメカニズム
を詳しく学べる最適の教科書となっている。特に個々
の検査項目の検査値の経時変化を論理的に考えた上
で、各検査値を統合的に捉えたい、と考えている人に
ぜひ薦めたい。

著者の本田教授がこの十数年にわたって信州大学方
式を推進してきたことは、この領域で誰もがチャレン
ジしてこなかったまさに臨床検査診断学の標準化であ
ることを最後に強調したい。読了してみると気付かな
いうちにLogical Thinking RCPCが身につくよう工夫
されている。本著作は多くの読者にそのことを実感さ
せるものであると信じている。